

2会の夏休みドリル

2年生 答え

おうちのかたへ

お子さまが問題を解き終わったら、○つけをしてあげてください。
間違えやすいポイントやお子さまへの声かけのヒントを掲載しています。

算 数 …… 1

せいかつ …… 16

国 語 …… 28

国語の答えは反対側から始まります。

1 1年生の ふくしゅう ①

2ページ

10分 算 1 ページ

1 1年生の ふくしゅう ①

1 しきの カードと 文字の カードが ○で つながれて います。それぞれの カードの 計算を しましょう。答えの 数に あう 文字を □に 書きましょう。

0 3 6 9 12 15 18
う み で あ そ ぼ う

おうちのかたへ

お子さまが戸惑っている場合は、「 $8+1+9$ はいくつかな？」のように、まず何をすればよいかわかりやすく伝えてあげましょう。「18」と、正しい答えが出てきたら、「 $8+1+9$ の式には『う』という文字がつながれているから、下の『18』のところに『う』と書くだよ。」のように説明してあげるとよいでしょう。

それぞれの計算の答えは次の通りです。


- $8+1+9=18$ • $2+5-4=3$
- $14-4-1=9$ • $14-8-6=0$
- $13-7=6$ • $3+7+2=12$
- $19-4=15$


計算をして、答えの数字を下の表から探しても見つからないときは、計算を間違えてしまっています。どこが間違えているのか、一緒に確認してあげてください。3つの数の計算では、途中の計算結果を覚えておく必要があります。覚えておくことが難しい場合は、途中の計算結果を書いておいてもよいことを教えてあげましょう。


10分 第2ページ

2 1年生の ふくしゅう ②




1 時計を読み、□に時刻を書きましょう。

①  8時

②  2時半 (2時30分)

③  4時55分

2 ①～③をくらべて、みじかいものからじゅん番に□に記号を書きましょう。

①  ②  ③ 

3 数のならびかたのきまりを考えて、□にあてはまる数を書きましょう。

①

51	54	57	60	63
----	----	----	----	----

②

45	35	25	15	5
----	----	----	----	---

③

90	95	100	105	110
----	----	-----	-----	-----

おうちのかたへ

1 時計の読み取りは、大人が想像する以上に、子どもにとっては難しいものです。普段の生活の中で「今、何時かな?」「〇時〇分から夕ご飯を食べよう。」などの時刻を意識した声かけをするとよいでしょう。

2 は、長さを比べる問題です。マス目ごとの線の数を比べれば、折れ曲がったものの長さを比べることができることを教えてあげましょう。

3 は、数の規則を見つける問題です。3 で戸惑っている場合には、次の(1)～(3)のような手順で説明してあげてください。

- 90から110までの数の線(数直線)を一緒にかいてみましょう。
- 「90と100の真ん中の数は何かな?」などと問かけ、「95」を考えさせてみましょう。わからなければ、数直線で目盛りを一緒に数えてあげてください。
- 90から95までと、95から100までは、それぞれ5ずつ増えていることを確認し、数の増え方に規則があることを伝えましょう。

10分 第2ページ

3 たし算・ひき算の 筆算 ①

1 筆算でしましょう。

① $11 + 35 = 46$

② $27 + 42 = 69$

③ $53 + 25 = 78$

④ $68 - 24 = 44$

⑤ $31 - 21 = 10$

⑥ $77 - 33 = 44$

2 カモメが 34羽 います。そこへ 22羽 とんで きました。カモメは ぜんぶで 何羽に なりましたか。

しる $34 + 22 = 56$

答え 56羽

$34 + 22 = 56$

おうちのかたへ

繰り上がり・繰り下がりのない筆算に取り組みます。繰り上がり・繰り下がりのない筆算では、一の位からではなく、十の位から先に計算しても正しい答えが出ますが、繰り上がり・繰り下がりのある筆算では、十の位から先に計算すると正しい答えを導き出すことができませぬ。繰り上がり・繰り下がりのあるたし算・ひき算の学習に備えて、一の位から順に計算する習慣がお子さまに身につけているか確認しましょう。

1 は、解答欄の中に自分で筆算を書いてから計算する問題です。白紙のところに、同じ位を縦にそろえて書き、+や-の記号と横線を自分で書く作業が必要となります。これは、子どもにとって難しいことです。位を縦にきちんと揃えていないと、位が増えたときやかけ算、わり算の筆算の際、計算ミスにつながりやすくなります。お子さまがていねいに筆算を書けているか、確認しましょう。筆算の学習始めのこの段階で、正しい書き方を習慣化することが大切です。

4 たし算・ひき算の筆算②

5ページ

10分 家 3 ページ

4 たし算・ひき算の筆算②

1 □にあてはまる数字を書きましょう。

①
$$\begin{array}{r} 24 \\ + 3\boxed{1} \\ \hline 55 \end{array}$$

②
$$\begin{array}{r} \boxed{7}3 \\ + 24 \\ \hline 97 \end{array}$$

③
$$\begin{array}{r} \boxed{7}5 \\ - 24 \\ \hline 51 \end{array}$$

2 貝が 35こ あります。そのうちの 24こを ラッコが おなかの上で 食べました。わって いない 貝は 何こですか。

しき $35 - 24 = 11$

答え 11 こ

③
$$\begin{array}{r} 35 \\ - 24 \\ \hline 11 \end{array}$$

3 98円 もって います。2本セットで 65円の アイスを 買うと、のこりは 何円に なりますか。

しき $98 - 65 = 33$

答え 33 円

③
$$\begin{array}{r} 98 \\ - 65 \\ \hline 33 \end{array}$$

おうちのかたへ

①は虫食い算とよばれる問題です。お子さまが戸惑っている場合は、通常の筆算と同じように、一の位の計算から順に考えるよう促してあげましょう。

①では、一の位の計算が、 $4 + \square = 5$ にあてはまる数を考えます。十の位の計算が成り立つことも確認するようお子さまに伝えましょう。

②では、一の位の計算が、 $3 + 4 = 7$ で正しいことを確認し、次に十の位の計算を見て、 $\square + 2 = 9$ になる数を考えます。

③も②と同様に、一の位の計算が、 $5 - 4 = 1$ で正しいことを確認し、次に十の位の計算を見て、 $\square - 2 = 5$ になる数を考えます。

どの問題も、答えが出たら、□に数字をあてはめて、正しい筆算になるか確かめをするように促すとよいでしょう。なお、本問は、たし算とひき算の関係を使って、例えば①では、 $55 - 24 = 31$ として解くこともできます。2年生ではたし算とひき算の関係は学習しますが、逆算の手順は3年生以降の内容になります。

算数

5 時刻と時間①

6ページ

10分 家 3 ページ

5 時刻と時間①

時計の長い はりが 1 回りする 時間は 1 時間です。1 時間は 60 分です。

1 □にあてはまる数字を書きましょう。

① 60 分 = 1 時間

② 1時間10分 = 70 分

③ 93 分 = 1 時間 33 分

③ 93 分は 時計の長い はりが 1 回りして 何目盛り 33こを 過ぎます。


2 □にあてはまる数字を書きましょう。

① 3時から 6時までの 時間は 3 時間です。

② 7時26分の 1時間あとの 時刻は 8 時 26 分です。

3 3時15分から えい画が はじまりました。えい画が おわるまでの 時間は 2時間です。えい画が おわる 時刻は 何時何分ですか。

5 時 15 分



おうちのかたへ

①は、時間と分の単位換算の問題です。

②は、1時間10分を、1時間と10分に分けて、1時間10分=60分+10分=70分と考えます。

③は、ヒントにあるように、93分は時計の長い針が1回りと何目盛り動くかを考えます。まずは、実際の時計を見て、時計の長い針が1回りするのに60分かかる(60目盛り動く)ことを確認してあげてください。次に、 $93 - 60 = 33$ (33目盛り分)だから、93分は60分と33分を合わせた時間だということを確認します。最後に、60分=1時間なので、1時間33分と求められることを教えてあげるとよいでしょう。

②、③は、時刻と時間についての問題です。「時刻」と「時間」は、算数では区別して扱います。時刻はある一点を表すのに対して、時間は、時刻と時刻の間の長さを表します。時刻と時間についてお子さまの理解が不十分な場合は、ここでしっかり理解できるように説明するとよいでしょう。

10分 第4ページ

6 時ごとと 時間 ②


1 ゆうさんが 朝、家を出た 時ごとを 「午前」、「午後」 を つかって 書きましょう。



午前7時20分


ゆうさんが 朝、家を出た 時ごと

2 いぶきさんは、午前8時30分から 魚つりを 始めました。さいしよの 魚が つれるまでに かかった 時間は 15分です。いぶきさんが さいしよに 魚を つった 時ごとを 「午前」、「午後」 を つかって 答えましょう。



午前8時45分

3 はるさんは、午後1時40分に みなとを 出ばつする 船に のろうと して います。はるさんが みなとに ついたのは、船が 出ばつする 20分前でした。 はるさんが みなとに ついた 時ごとを 「午前」、「午後」 を つかって 答えましょう。



午後1時20分

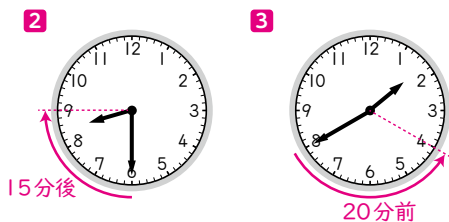
算数

おうちのかたへ

「午前」、「午後」を使った時刻の表現を取り上げた問題です。「正午（昼の12時）よりも前であれば午前」「正午よりも後であれば午後」であることを理解できているか確認してあげましょう。

①～③では、問題文に「『午前』、『午後』を つかって」とあるので、「午前」や「午後」をつけていない答えは不十分です。ない場合は、以下のように考えればよいことを教えてあげましょう。

①問題文の「朝」という言葉にまず着目し、昼の12時より前だから午前であるとわかります。②は「午前8時30分の15分後の時刻」、③は、「午後1時40分の20分前の時刻」を答える問題です。わかりにくいときは、下のように時計の針を動かして考えるよう伝えましょう。



10分 第4ページ

7 数の パズルに ちょうせん

1 ルールを 読んで、ぜんぶの マスに 1から 4の 数字を 入れましょう。

ルール

- どの たでの れつにも、1から4の 数字が 1回ずつ 入る。
- どの よこの れつにも、1から4の 数字が 1回ずつ 入る。
- 太い 線で かこまれた マスの 中に、1から4の 数字が 1回ずつ入る。

れい

ここから 答えよう。

1			2
	3	4	
	1	2	
3			4

→

1	4	3	2
2	3	4	1
4	1	2	3
3	2	1	4

①

1	3	4	2
2	4	3	1
3	2	1	4
4	1	2	3

②

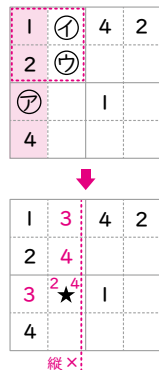
あつちに、ここを 答えよう。

2	4	1	3
1	3	2	4
4	2	3	1
3	1	4	2

●ここから 答えよう。

おうちのかたへ

ルールに従い、数字の位置を決めていく問題です。お子さまが、ルールの意味を理解しているか確認しましょう。解き方のポイントは、「このマスにはこの数字しか入れられない」というマスを見つけることです。縦と横の列、マスの中で1つだけ数字が欠けているところがないかまず探します。①の場合、右図の上の㉠が該当します。一番左の縦の列で1、2、4の数字が使われているため、㉠には3が入ることがわかります。同様に、㉡には3が入ります。次に左上の2×2のマ스에着目すると、1、2、3の数字が使われているため、㉢には4が入ることがわかります。その次に、右図の下の★に着目します。横の列で見ると2か4が候補となりますが、★が4だと縦の列でルールを破ることになります。よって、★は2です。それぞれの縦と横の列、2×2のマ스에同じ数字がないかを一緒に確認し、どこでルールを破っているのかを見つけるとよいでしょう。



8 たし算・ひき算の ひみつ ①

10分 第5ページ

8 たし算・ひき算の ひみつ ①

1 海に 大人が 43人、子どもが 35人 います。ぜんぶで 何人 いるでしょう。

① □ に あてはまる 数を 書きましょう。

ぜんぶで ?人

大人 43人 子ども 35人

② しきを 書いて 答えを もとめましょう。

しき $43 + 35 = 78$ 答え 43
 $+ 35$
 78

2 海に 78人 います。子どもは 35人です。大人は 何人 いますか。

① □ に あてはまる 数を 書きましょう。

ぜんぶで 78人

大人 ?人 子ども 35人

② しきを 書いて 答えを もとめましょう。

しき $78 - 35 = 43$ 答え 78
 $- 35$
 43

算数

おうちのかたへ

今回は「海にいる大人と子どもの数を考える」という場面を用いて、たし算とひき算が逆の関係にあるということ学びます。条件を整理するために、問題にあるようなテープ図にあてはまる数を書き入れて、わからない数はどこなのかを把握してから、たし算を使うのか、ひき算を使うのかを考えていきます。お子さまが戸惑っている場合は、問題文を読みながら、あてはまる数を1つずつ確認するよう促しましょう。

1と2の問題に取り組んだ後に、2つの問題が同じ場面を表していることに気づけるとよいでしょう。「ひき算の答えにひく数をたすと、ひかれる数になる」という事実のみを覚えるのではなく、1、2のような具体的な場面を思い出して考えてみると、たし算とひき算の関係や、答えを確かめる方法を覚えやすくなります。今回は扱いませんでしたが、同じ題材で、「海に78人います。大人は43人です。子どもは何人いますか。」という問題も、2と同じように考えてひき算で求められることを確認してもよいでしょう。

算数

9 たし算・ひき算の ひみつ ②

10分 第5ページ

9 たし算・ひき算の ひみつ ②

たし算とひき算の かんけい

ひき算の 答えに ひく数を たすと、ひかれる数に なります。

$78 \leftarrow$ ひかれる数 $\rightarrow 43 \leftarrow$ たされる数
 $- 35 \leftarrow$ ひく数 $+ 35 \leftarrow$ たす数
 $43 \leftarrow$ 答え $\rightarrow 78 \leftarrow$ 答え

💡 $78 - 35 = 43$ とすると、たし算も1ときは、 $43 + 35 = 78$ 、ひき算も1ときは、 $78 - 35 = 43$ 計算すれば、いっしょだね。

1 計算をして、答えの たしかめも しましょう。

① 算盤

34	55	13	86
+ 21	- 21	+ 73	- 73
55	34	86	13

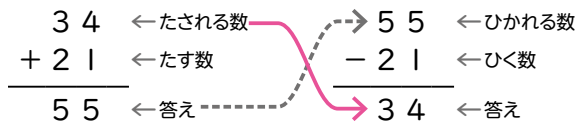
② 算盤

73	51	48	11
- 22	+ 22	- 37	+ 37
51	73	11	48

10

おうちのかたへ

第8回 (P.9) の学習で、「ひき算の答えにひく数をたすと、ひかれる数になる」ということを、具体例を通して学習しました。教科書ではひき算の検算としてこの関係が主に扱われています。本書ではこの考え方をたし算の検算にも応用させ、「たし算の答えから、たす数をひくと、たされる数になる」ことを学習します。このことを、①の計算を使って図に表すと、下のようになります。本文の「たし算とひき算のかんけい」の図と左右が逆になることに注意しましょう。



慣れるまでは、上の図のように矢印を書きながら考えると理解しやすくなります。

たし算の検算には、交換法則(たされる数とたす数を逆にすると、上のようにひき算を使ったものの2種類がありますが、ひき算を使って検算ができるようにしておくともよいでしょう。

10 長さ ①

11ページ

10分 第6ページ

10 長さ ①

1cmは、1mmが10こ分の長さです。 $1\text{cm} = 10\text{mm}$

1 に あてはまる 数を 書きましょう。

- 1cmは、1mmが **10** こ分の長さです。
- 1mmを 35こ あつめると **35** mmになります。
35mmは **3** cm **5** mmと 同じ 長さです。
- 2cm7mmは **27** mmです。

2 絵を見て、青色のテープの長さを 答えましょう。

- 4cm (40mm)**
- 5cm5mm (55mm)**
- 2cm7mm (27mm)**

ヒント: 小さい目盛り(mm)を 読みとります。

算数

おうちのかたへ

①の①は1cm=10mmという関係を理解しているかを問う問題です。実際のものさしで目盛りを確認すると理解が深まるでしょう。

②は、1mmを35個集めると35mmで、35mmを30mmと5mmに分けて考えます。30mm=3cmなので、35mm=30mm+5mm=3cm+5mm=3cm5mmです。

③は、2cm7mmを2cmと7mmに分けて考えます。2cm=20mmなので、2cm7mm=20mm+7mm=27mmです。

②は、ものさしを使った図を見て長さを答える問題です。ヒントにもありますが、先に大きい目盛り(cm)を読み取り、次に小さい目盛り(mm)を読み取る、という手順を守りましょう。cmを読み取るときは、必ず「0から」大きい目盛りいくつ分かを読み取り、mmを読み取るときは、「cmを読み取った部分から」小さい目盛りいくつ分かを正しく数えるようにしましょう。この問題では、①「40mm」②「55mm」③「27mm」のように、mmで答えていても正解です。

算数

11 長さ ②

12ページ

10分 第6ページ

11 長さ ②

1 に あてはまる 数を 書きましょう。

- 4cm = **40** mm
- 70mm = **7** cm
- 45mm = **4** cm **5** mm

2 いま つかっている この 本を とじた ときの よこ(みじかいほう)の 長さを よそうして、 に 長さを 書きましょう。また、ものさしで 長さを たしかめて、 に 長さを 書きましょう。
*よそうが 書けて いれば 正かいです。↓

よそう **20cm (200mm)**

たしかめ **21cm (210mm)**

*ものさしで はかって 21cmに ちかい 長さであれば 正かいです。

3 ものさしを つかって、7cm7mmの 長さの 道線をもとに の 中に ひきましよう。

(れい)

*ものさしで はかって 7cm7mmであれば 正かいです。

おうちのかたへ

①は、cmとmmの単位換算の問題です。

1cm=10mmが基本になります。

③は、45mmを40mmと5mmに分けて考え、40mm=4cmなので、45mm=4cm+5mm=4cm5mmです。

②は、この本の横の長さを予想し、実際に測るという問題ですが、この問題の目的は、正確に測定することではなく、長さに興味を持たせることです。1cmや10cmなどの長さが、だいたいどのくらいの長さかを経験的に知っておくと、いろいろなものの長さを予想するのに役立ちます。予想の問題は何cmであっても正解としてあげてください。

長さの単元で大切なのは、机上の勉強だけではなく、具体物を実際に測ることで、1cmや1mmの大きさを経験的に実感することです。身のまわりのものの長さを予想してから、ものさしやメジャーなどを使って実際の長さを測るという取り組みを行ってみるとよいでしょう。

12 かさ ①

13ページ

10分 第47ページ

12 かさ ①


1Lは、1dLが 10こ分の 大きさです。
1dLは、1mLが 100こ分の 大きさです。


1L=10dL 1L=1000mL 1dL=100mL


1 に あてはまる 数を 書きましょう。

- 1dLを 10こ あつめると **1** L になります。
- 2Lは 1dLが **20** こ分の 大きさです。
- 1dLを 42こ あつめると **42** dLに なります。
42dLは **4** L **2** dLと 同じ 大きさです。

2 1Lますと 1dLますの 絵を見て、水の かさを 答えましょう。

- 

4L (40dL)
- 

2L3dL (23dL)
- 

4dL

算数

おうちのかたへ

かさの単元も長さの単元と同じように、1Lや1dLの大きさをイメージすることが大切です。牛乳パックや紙パックのジュース、ペットボトルなど、身近なものの中から「L」などのかさの単位が書かれたものを探して、1Lがどのくらいの大きさなのかを知る体験をしておくとういでしょう。

①は、1L=10dLという関係を理解しているかを問う問題です。③は、1dLを42個集めると42dLで、42dLを40dLと2dLに分けて考えます。40dL=4Lなので、42dL=40dL+2dL=4L+2dL=4L2dLです。

②は1Lますの絵を見て、かさを答える問題です。1Lがいくつ分か、1dLがいくつ分かを順に考えていきましょう。②では1dLを1dLます1つ分で数えているのに対して、③では、1dLを1Lを10等分した1つ分のかさととらえていることに注目しましょう。どちらも同じ1dLを表していることをお子さまといっしょに確認するとよいでしょう。この問題では、①「40dL」②「23dL」のように、dLで答えていても正解です。

算数


13 かさ ②







14ページ

10分 第47ページ

13 かさ ②

1 つぎの かさの 水を 1Lますに、入れると どのように なりますか。1Lますの 絵に 色を めって 答えましょう。

やり方 1L2dL → 

- 3dL → 
- 1L9dL →  (れい)
-  → 
-  →  (れい)

2 に あてはまる >、<、=を 書きましょう。* 1dL=100mLなので 4dL=400mLです。

- 5L **>** 43dL 2 300mL **<** 4dL
- 2L **=** 2000mL 4 56dL **<** 7L2dL

おうちのかたへ

①は、1dLます1つ分のかさと、1Lますを10等分した1つ分のかさが同じであることに注意しましょう。

③は1dLます6個分のかさなので、1Lますを10等分したかさの6つ分と同じです。

②のようなかさの大小比較の問題では、単位をそろえて比べる必要があります。1L=10dL、1L=1000mLであることを使います。

①は5L=50dLだから50dLと43dLを比べてもよいですし、43dL=4L3dLだから、5Lと4L3dLを比べてもよいです。

②は、dLで表されたかさとmLで表されたかさの比較です。1dLの10個分の大きさは1L、100mLの10個分の大きさは1000mLなので、1dL=100mLであることがわかります。したがって、4dL=400mLなので、300mL<400mLだから、300mL<4dLです。

③の2Lと2000mLは同じ大きさなので、「=」で結びます。

④は、①と同様、56dL=5L6dLと考えても、7L2dL=72dLと考えても構いません。

10分 算数 8ページ

14 同じ絵をつなごう

1 ルールを読んで、同じ絵どうしを線でつなぎましょう。

ルール

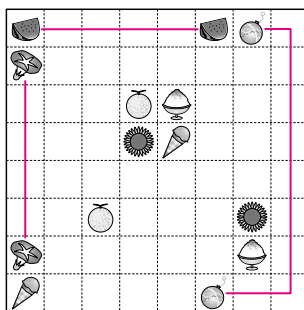
- 線は、ますのまん中を通るように、たてやよこに引く。
- 線をななめに引いてはいけない。
- 絵が入っているますを通りぬけてはいけない。
- 1つのますには、1本だけ線を引く。線どうしがかさなったり、線がとちから分かれたり、くっついたりしてはいけない。

れい

算数

おうちのかたへ

問題に書かれたルールにしたがって、同じ絵を線でつなぐ問題です。1つのマスに1本だけ線が書かれていて、同じ絵が線でつながっていれば正解です。最初に🍉の絵、🍄の絵を直線でそれぞれ結びます。次に🍌の絵を結び、その後その他の絵の結び方を考えると考えやすくなります。



線が斜めになっていたり、線どうしが交わったりしている場合は、もう一度ルールを確認するように声をかけてあげてください。

10分 算数 8ページ

15 たし算・ひき算の筆算 ③

1 筆算でしましょう。

① $26 + 36$

$$\begin{array}{r} 26 \\ + 36 \\ \hline 62 \end{array}$$

② $53 + 19$

$$\begin{array}{r} 53 \\ + 19 \\ \hline 72 \end{array}$$

③ $42 + 38$

$$\begin{array}{r} 42 \\ + 38 \\ \hline 80 \end{array}$$

④ $68 - 29$

$$\begin{array}{r} 68 \\ - 29 \\ \hline 39 \end{array}$$

⑤ $31 - 17$

$$\begin{array}{r} 31 \\ - 17 \\ \hline 14 \end{array}$$

⑥ $84 - 36$

$$\begin{array}{r} 84 \\ - 36 \\ \hline 48 \end{array}$$

2 □にあてはまる数字を書きましょう。

① $1 \square + 25 = 44$

② $27 + \square 6 = 63$

③ $42 - 2\square = 14$

16

おうちのかたへ

「繰り上がりがあるたし算」「繰り下がりがあるひき算」を学習します。計算ミス減らすために、繰り上がりや繰り下がりがあったことがわかるようなメモを残すとよいでしょう。繰り下がりの場合は斜線を引いて数を変更するのが最も一般的なものですが、やり方は自由です。お子さまにとってわかりやすい方法をとるようにしてください。

②は、第4回と同じように通常の筆算と同じ手順で取り組みます。①は一の位の計算で、 $\square + 5 = 4$ となる数はないので、一の位で繰り上がりがおこって、 $\square + 5 = 14$ となると考えます。②は一の位の計算で $7 + 6 = 13$ で繰り上がりがおこっているの、十の位の計算では、 $1 + 2 + \square = 6$ より、 \square にあてはまる数を考えます。③の一の位では、 $2 - \square = 4$ にあてはまる数がないことから繰り下がりがおこって、 $12 - \square = 4$ になっていると予想し、十の位の計算が1繰り下がって、 $3 - 2 = 1$ になっていることで計算が正しいことを確認します。

16 たし算・ひき算の筆算 ④

17ページ

16 たし算・ひき算の筆算 ④

1 90人のりの船に 大人が 28人、子どもが 36人 のっています。

① この船に のって いる 大人と 子どもは、 どちらが 何人 多いですか。

しき $36 - 28 = 8$

答え 子どもが8人多い。

② この船には ぜんぶで 何人の 人が のって いますか。

しき $28 + 36 = 64$

答え 64人

③ この船には あと 何人の 人が のれますか。

しき $90 - 64 = 26$

答え 26人

ヒント ときめいたら、 算まの たしめを しよう。

おうちのかたへ

たし算とひき算を使った文章題です。

たし算を使うのかひき算を使うのか迷っている場合は、第8回「たし算・ひき算のひみつ① (P.9)」にあるようなテープ図をかいて、わからない数はどこのかを把握してから、たし算を使うのか、ひき算を使うのかを考えるように促しましょう。

答えを書き終わったら、第9回「たし算・ひき算のひみつ② (P.10)」で学習した検算を使って答えのたしかめをするとよいでしょう。

また、筆算を使った文章題では、筆算だけを書いて式を書き忘れたり、筆算で答えが出たあと、その答えを答えの欄に写すのを忘れたりしてしまうことがあります。テストで式や答えの欄を空欄にしてしまうと、減点になってしまうことがあるので、気をつけるように声をかけてあげてください。

算数

17 大きい数 ①

18ページ

17 大きい数 ①

1 ブロックが あらわして いる 数を 数字で 書きましょう。

百のくらい 十のくらい 一のくらい

① 345

② 111

③ 310

④ 205

⑤ 44

2 数字で 書きましょう。

① 八百四十八 848

② 三百四十九 349

③ 六十八 68

④ 六百五 605

おうちのかたへ

1000までの数についての問題です。

数の学習で大切なのは、その数の分の具体物を目で見たり数えたりして、その数の大きさを実感することです。ご家庭にあるビーズ、お菓子、紙などの「〇個入り」、「〇枚入り」のような表示に注目し、100より大きい数を実感する機会をもつとよいでしょう。

①では、ブロックを用いて位取りについて学習します。ここでしっかりと位取りについて理解しておけば今後の1000より大きい数の単元などでもスムーズに学習が進められるでしょう。③、④の問題でブロックが1つもないところがありますが、このときその位には「数字を何も書かない」のではなく「何もないから0を書く」ということを理解するのが難しいところです。一方、⑤は、100より小さい数なので、百の位には0を書きません。0を書くときと書かないときで表される数の違いについてお子さまと話し合ってみるとよいでしょう。

18 大きい数 ②

19ページ

18 大きい数 ②

10分 第4 10 ページ

1 □に あてはまる >、< を 書きましょう。

① 323 > 198

② 199 < 211

③ 543 > 456

2 □に あてはまる 数を 書きましょう。

① 654は、100を **6** こと 10を **5** こと 1を **4** こと 合わせた 数です。

② 100を 5こ、10を 3こ 合わせた 数は **530** です。

③ 400は 10を **40** こと あつめた 数です。

④ 百のくらいが 4で 十のくらいが 3で 一のくらいが 2の 数は **432** です。

⑤ 659は、600と 50と 9を 合わせた 数です。これを しきて あらわすと、
 $659 = 600 + 50 + 9$
 になります。

算数

おうちのかたへ

①は、大きな数の大小比較の問題です。①の「323」と「198」の比較では、9という数字が「大きい」という印象をもつため、それに引きずられて198のほうが大きいと勘違いしてしまうことがあります。桁数が同じ数どうしの大小比較では、大きい位（ここでは3桁の数なので、百の位）から順に比べていくという手順をとりましょう。本問では扱っていませんが、桁数の違う数どうしの大小比較は、はじめに桁数を比べて、桁数の大きいほうが大きい数であると判断します。

②は、数の構成や位取りに関する問題です。3桁の数が「100が○個、10が△個、1が□個」という構成になっているととらえることが大切です。⑤は、「600と50と9を合わせた数」という言葉を、たし算の式に表します。「=」は「=の左側と右側が同じ」という意味なので、=の右側が計算の形になっていてもよいことを教えてあげてください。


19 ひょうと グラフ ①

20ページ

19 ひょうと グラフ ①

10分 第4 10 ページ

1 下の 絵に いる 生きものの 数を しらべます。



① 生きものの 数を しゅるいごとに 数え、○をつかって 右の グラフに あらわしましょう。

○				
○			○	○
○	○	○	○	○
○				

② ひょうに まとめましょう。

生きもの				
数	4	2	3	3

おうちのかたへ

表とグラフについての学習です。

①①では、生き物の種類ごとに数を数えます。数えたものに、\などの印をつけていくと、数え忘れや重複して数えることがなくなり、楽に数えることができることを教えてあげてください。2年生で扱うグラフは、主に○を使ったグラフです。生き物1匹に対して○を1つ書いていきます。グラフにまとめることで、「どの生き物が多いか」などの数の比較がすぐにできることに気がつけるとよいでしょう。

②では、①でグラフに整理されているものを表に書きかえる問題です。○の数を数えて、生き物の種類ごとに表に数を書き入れていきます。表では、生き物の数が整理されていて見てすぐにわかることができ便利です。

表とグラフはどちらも、絵の中から生き物の数を数えるより便利ですが、表、グラフそれぞれの便利さがあることにも気がつけるとよいでしょう。

10分 第11ページ

20 ひょうと グラフ ②

1 海の家で かきごおりを 売って います。今日 売れた 数を ひょうに まとめました。

しゅるい	イチゴ	メロン	レモン	ブドウ
数	7	8	5	6

2 売れた かきごおりの 数を ○を つかって、下の グラフに あらわしましょう。

イチゴ	○	○	○	○	○	○	○		
メロン	○	○	○	○	○	○	○	○	
レモン	○	○	○	○	○	○			
ブドウ	○	○	○	○	○	○			

3 売れた レモン の かきごおりの 数は 何ですか。

5こ

4 売れた 数が いちばん 多かったのは どの かきごおりですか。

メロン

5 売れた 数が メロン の かきごおりより 2こ 少ないのは どの かきごおりですか。

ブドウ

算数

おうちのかたへ

第19回 (P.20) の1②は、グラフから表に表す問題でしたが、今回の1①では、表からグラフに表す問題です。

また、第19回 の1①は○を縦に積み上げていく形なのに対して、今回の1①では○を横にならべていく形のグラフです。教科書では主に縦型のグラフを用いているため、今回の1①のグラフはお子さまにとって初めて目にする形のグラフかもしれません。書き方に困っているようでしたら「イチゴのかき氷の数だけこの行に○を書いていくんだよ。」とサポートしてあげるとよいでしょう。

2・3・4は、表やグラフから情報を読み取る問題です。表を見たほうがわかりやすいものとグラフを見たほうがわかりやすいものと2つのケースに分かれるかと思えます。2つの比較を通して、表とグラフの違いや特徴をお子さまと話しあうとよいでしょう。

21 カレンダーを 元どおりに しよう

10分 第11ページ

21 カレンダーを 元どおりに しよう

1 ある年の 8月の カレンダーを ①~⑦の 6つの ピースに 切り分けて、パズルに しました。この パズルを 元どおりに して、 つぎの もんだいに 答えましょう。

①

6	7	8
13		

②

3	4	5
	11	
	18	

③

2		
9	10	
16		
23		

④

12		
19	20	21
	27	

⑤

14	15	
	22	
28	29	

⑥

17		
24	25	26
30	31	

⑦

8月	日	月	火	水	木	金	土
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

8月2日は「おやつの日」です。「おやつの日」は 何曜日ですか。

日 曜日

ある おかしやさんは、毎月 19日を、「シュークリームの日」として います。8月の「シュークリームの日」は 何曜日ですか。

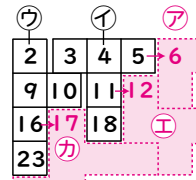
水 曜日

おうちのかたへ

元の並び方を考える問題です。カレンダーに数を書き込みながら考えると解きやすいこと、カレンダーの並び方には次の3つの決まりがあることをお子さまに伝えてあげましょう。

- 1週間は7日あるので、最初の週と最後の週以外は、必ず横に7個の数が並ぶ。
- ある数のすぐ右の数は、もとの数より1大きい数になる。
- ある数のすぐ下の数は、もとの数より7大きい数になる。

右の図のように①で、「9」の右に「10」があることから、「2」のすぐ右にも数があることがわかるため、すぐ右に②の「3」がくるように並べます。



次に、「16」や「11」、「5」のとなりにくる数に着目してパズルを並べていくと、カレンダーが完成し、8月2日は日曜日、19日は水曜日であることがわかります。

22 長い 計算に ちょうせん ①

23ページ

10分 第12ページ

22 長い 計算に ちょうせん ①

たし算では、たす じゅんじよを かえて 計算しても $4+7+6=17$
 答えは 同じです。じゅんじよを かえた ほうが $6+7+4=17$
 かんたんに 計算できる ことがあります。 $4+6+7=17$

1 く、① 20 しよう。

① $14+19+6 = 20+19=39$

② $37+28+13 = 50+28=78$

③ $5+7+15+3 = 20+10=30$

④ $2+36+4+18 = 20+40=60$

と中の しきは 書かなくても よいです。

おうちのかたへ

順序をかえることで計算が簡単になることを学びます。お子さまが戸惑っているようでしたら、ヒントのような矢印や途中計算のメモを補ってあげてください。

① $14+6$ を先に計算します。

$14+6=20$ だから、 $20+19=39$

② $37+13$ を先に計算します。

$37+13=50$ だから、 $50+28=78$

③ $5+15$ 、 $7+3$ の組み合わせにして計算します。

$5+15=20$ 、 $7+3=10$ だから、 $20+10=30$

④ $2+18$ 、 $36+4$ の組み合わせにして計算します。

$2+18=20$ 、 $36+4=40$ だから、 $20+40=60$

計算が得意なお子さまの場合、工夫をすることの優位性を理解できないことがあります。今は工夫をすることよりも正確に答えを出すことのほうが大切ですので、無理に工夫をする必要はありません。計算という単純な問題でもいろいろな解き方ができるということを知っておくだけで十分でしょう。

23 長い 計算に ちょうせん ②

24ページ

10分 第12ページ

23 長い 計算に ちょうせん ②

() がある しきでは、() の 中を 先に 計算します。
 $17+(24+36)=17+60=77$

1 計算を しましょう。 *と中の しきは 書かなくても よいです。

① $5+(6+14) = 5+20=25$

② $12+(12+18) = 12+30=42$

③ $10+(1+8+1) = 10+10=20$

④ $5+(2+9)+5 = 5+30+5 = 10+30 = 40$

2 答えが 同じに なる しきを えらび 線で 結びましょう。

$11+(5+5)$ ← $7+8+3+1+2$

$50+(19+11)$ ← $22+9+28$

$39+(14+6)$ ← $7+14+8+12+16+23$

おうちのかたへ

前回到引き続き、計算の順序に関する問題です。

() を使って立式をするのは、4年生になってからです。今は、() がある時はそこから先に計算するというところだけ理解できていればよいでしょう。

① $5+(6+14)$ の計算で、 $6+14=20$ の計算を先にすることで、 $5+(6+14)=20+5=25$ のように書いてしまうことがあります。これでは=の左右で等しくならないので、このような書き方はしないことを教えてあげてください。

②の計算は、それぞれ次のようになります。

$11+(5+5)=11+10=21$

$50+(19+11)=50+30=80$

$39+(14+6)=39+20=59$

$7+8+3+1+2 = (7+3) + (8+2) + 1 = 10+10+1=21$

$22+9+28 = (22+28) + 9 = 50+9=59$

$7+14+8+12+16+23$

$= (7+23) + (14+16) + (8+12)$

$= 30+30+20=80$

24 長さとかさの計算

25ページ

10分 第13ページ

24 長さとかさの計算

1 計算をしましょう。

① $1\text{cm} + 2\text{cm} = 3\text{cm}$ ② $9\text{mm} - 2\text{mm} = 7\text{mm}$

③ $5\text{L} + 3\text{L} = 8\text{L}$ ④ $16\text{dL} - 8\text{dL} = 8\text{dL}$

2 計算をしましょう。

① $5\text{cm} + 5\text{mm} = 5\text{cm}5\text{mm}$ (55mm)

② $16\text{cm} + 2\text{cm}8\text{mm} = 18\text{cm}8\text{mm}$ (188mm)

③ $3\text{L}4\text{dL} + 4\text{L}3\text{dL} = 7\text{L}7\text{dL}$

④ $9\text{L}8\text{dL} - 5\text{L}7\text{dL} = 4\text{L}1\text{dL}$

3 カニがよご歩きをしています。7cm うごいたあと、また9cm うごきました。カニがうごいた長さはぜんぶでどれだけです。

しき $7 + 9 = 16$

答え 16cm

*しきに cm をつけてもよいです。

25

おうちのかたへ

長さとかさのたし算・ひき算に取り組みます。まず、長さやかさも、同じ単位どうしなら普通の数と同じようにたし算やひき算ができることを確認しましょう。①のように1種類のみ単位を用いたものは、通常のたし算やひき算をすればよいので戸惑いは少ないかと思いますが、②のように、複数の単位が出てくる問題は戸惑うことがあるかもしれません。

②①は5+5を計算して、答えを「10cm」や「10mm」と間違えやすい問題です。そのような場合には単位がちがう長さどうしのたし算であることを説明してあげてください。わかりにくい場合は、ものさしを使って「5cm」と「5mm」の長さをたすとどんな長さになるのか考えさせるとよいでしょう。

②は、cmはcmどうしでたし算をします。

③、④は、LはLどうし、dLはdLどうしでたし算やひき算をします。

算数

25 数の線

26ページ

10分 第13ページ

25 数の線

1 数の線を見て 答えましょう。

0 100 200 300

40 220 370

① いちばん 小さい 目もりは、1目もりで いくつをあらわしていますか。 10

② 上の □ に あてはまる 数を 書きましょう。

③ 160を あらわす 目もりに ↑ を 書きましょう。

2 数の線を見て 答えましょう。

985 990 995 1000

① いちばん 小さい 目もりは、1目もりで いくつをあらわしていますか。 1

② 993より 3大きい 数は いくつですか。 996

③ 990より 4小さい 数は いくつですか。 986

26

おうちのかたへ

数直線に関する問題に取り組みます。数直線（低学年では「数の線」）の問題に取り組む際にいちばん大切なことは、まず1目盛りの大きさがいくつなのかを判断することです。2年生の段階ではわり算が未習なので、1目盛りの大きさは、わり算で求めるのではなく、数の感覚と経験的な勘によって予測します。予測した数値が正しいかどうかは「1目盛りが10だとすると、10、20、30…」のように予測した数値をあてはめて数直線の目盛りを左から順に読んでいき、数直線に初めから書かれている数値とあっているかどうかで確かめていきます。

①の数直線では1目盛りが10を表しています。②で空欄にあてはまる数を求めるときは、10がいくつ分あるかを考えましょう。③は、160は100より60大きい数と考えて、100から6目盛り右に↑をかきます。または、160を200より40小さいと考えて、200より4目盛り左に↑をかいてもよいでしょう。

26 大きい数の計算

27ページ

26 大きい数の計算

1 計算をしましょう。

- ① $70+50=120$ ② $30+90=120$
- ③ $100+200=300$ ④ $500+500=1000$
- ⑤ $300+50=350$ ⑥ $600+7=607$

2 計算をしましょう。

- ① $140-50=90$ ② $180-90=90$
- ③ $700-300=400$ ④ $530-30=500$

3 魚が 210ぴき います。そのうちの 80ぴきを クジラが 食べました。魚は 何ぴき のこっていますか。

しき $210-80=130$



10ずつの かけで 算しましょう。

答え 130 ぴき

算数

おうちのかたへ

何十と何十のたし算やひき算、何百と何百のたし算やひき算などの、大きい数の計算に取り組みます。

①②、②①②は、十のまとまりがいくつあるかを考えます。

例えば、①①では、70は10が7個、50は10が5個あるので、70+50の答えは、10が7+5=12(個)あるので、70+50=120のように計算します。

①③④、②③は、百のまとまりがいくつあるかを考えます。

例えば、②③では、700は100が7個、300は100が3個あるので、700-300の答えは、100が7-3=4(個)あるので、700-300=400のように計算します。

筆算をして答えを求めてもよいですが、数を位ごとの束で考える場合は、計算力をつけるためになるべく暗算で答えを求めるように促してあげてもよいでしょう。

算数

27 ひょうに まとめよう

28ページ

27 ひょうに まとめよう

1 ゆずさんと りおさんは、花火を 30本ずつもっています。ゆずさんは 1日に 5本ずつ、りおさんは 1日に 3本ずつ つかって いくことに しました。



② のこりの 花火の 本数を ひょうに、まとめます。下の ひょうの あいて いる ところに あてはまる 数を 書きましょう。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
ゆずさん	25	20	15	10	5	0
りおさん	27	24	21	18	15	12

1日にも 花火を つかうので、のこりの 本数は 30では ありません。

③ 4日目に ゆずさんが もって いる 花火の のこりの 本数は 何本ですか。

10本

④ 2人が もって いる 花火の のこりの 本数を 合わせると 28本になるのは 何日目ですか。

4日目

*4日目は $10+18=28$ で 28本です。

⑤ 2人が もって いる 花火の のこりの 本数の ちがいが 10本になるのは 何日目ですか。

5日目

*5日目は $15-5=10$ で 10本です。

おうちのかたへ

今回は発展学習として複雑な情報を整理し、表に表すことに挑戦します。

まずは問題文の内容を理解しましょう。

- ・ゆずさんは、最初花火を30本持っている。
- ・ゆずさんは、1日に5本ずつ花火を使う。
- ・りおさんは、最初花火を30本持っている。
- ・りおさんは、1日に3本ずつ花火を使う。

の4つのことがわかっていれば、表をうめることができます。この問題では「のこりの本数」を表にしているので、1日目の本数が30ではなく、

ゆずさんは、 $30-5=25$ (本)、りおさんは、 $30-3=27$ (本)であることに注意が必要です。

2日目以降は、ゆずさんは前日より5小さい数を、りおさんは、前日より3小さい数を順に書き入れます。


③は、ゆずさんとりおさんの花火の本数を日ごとにたして見て、28本になる日を見つけます。④は、りおさんの花火の本数からゆずさんの花火の本数をひいてみて、10本になる日を見つけます。

28 おかしの はこを 当てよう

1 お楽しみ会で、おかしの 入っている はこを 当てる クイズをしました。7つの はこの うち、当たりの はこは 3つ あります。
ヒントを 読んで、おかしの はこを 当てましょう。

ヒント

- ① 2, 3, 5, 7の はこの うち、2つに おかしが 入って いる。
- ② 1, 3, 6の はこには、おかしは 入って いない。
- ③ 1, 4, 7の はこの うち、2つに おかしが 入って いる。
- ④ 2, 4の はこの うち、1つに おかしが 入って いる。



おかしが 入って いる はこは、 、、

おうちのかたへ

条件を整理してあてはまるものを特定する問題です。

ヒント① から順に考えると難しくなってしまうので、お菓子が入っている箱、入っていない箱を特定できる

ヒント から考えていくことがポイントです。条件を確認しながらお菓子が入っている番号に○、入っていない番号に×を書いて整理するとわかりやすくなります。

ヒント②：1、3、6にはお菓子が入っていない。

→1、3、6に×をつける。

ヒント③：1、4、7の2つにお菓子が入っている。

すでに1に×がついているので、4、7にお菓子が入っていることがわかります。

→4、7に○をつける。

ヒント④：2、4のうち1つにお菓子が入っている。

4に○がついているので、2にはお菓子が入っていないことがわかります。

→2に×をつける。

ヒント⑤：2、3、5、7のうち2つにお菓子が入っている。

2、3に×、7に○がついているので、5にお菓子が入っていることがわかります。

算数

算数 夏休みしあげテスト

2年生夏休み しあげテスト


1 筆算をしましょう。(1つ10点)

① $\begin{array}{r} 34 \\ + 15 \\ \hline 49 \end{array}$	② $\begin{array}{r} 47 \\ + 28 \\ \hline 75 \end{array}$
③ $\begin{array}{r} 90 \\ - 46 \\ \hline 44 \end{array}$	

2 □にあてはまる 数を 書きましょう。(1つ5点)

- ① 30dL = L
- ② 1時間20分 = 分
- ③ 100を 6こ、10を 3こ、1を 7こ 合わせた 数は です。
- ④ 800は 10を に あつめた 数です。

3 はるきさんは 右の 時計の 時刻に プールに つきました。はるきさんが プールに ついた 時刻を、「午前」、「午後」を つけて 書きましょう。(10点)



(午後1時42分)

4 夏休みの ドリルが 42ページ あります。りおさんは、今日までに 18ページ ときました。つかった ストロウの 長さ を 合わせる と 何cm何mm ですか。(しき10点・答え10点)

しき $42 - 18 = 24$

答え (24ページ)

しき $9\text{cm}4\text{mm} + 6\text{cm}7\text{mm} = 16\text{cm}1\text{mm}$

答え (16cm1mm)

おうちのかたへ

1 2けたの数のたし算、ひき算はつまずきやすい単元です。お子さまが一の位→十の位の順に計算できているか確認しましょう。

3 午前か、午後かは問題には書いてありませんが、時計を読むと「1時42分」とわかり、さらに「プールについた時刻」とあるので、昼の1時42分だとわかります。「午前」と答えてしまっている場合は、午前1時42分は真夜中であることをお子さまに気づかせてあげましょう。

5 は長さの計算の問題です。戸惑っている場合は、次のように順序だてて考えるよう教えてあげましょう。

(1)cmはcmどうし、mmはmmどうしをたす。

→15cm11mmとなる。

(2)11mm = 1cm1mm と換算する。

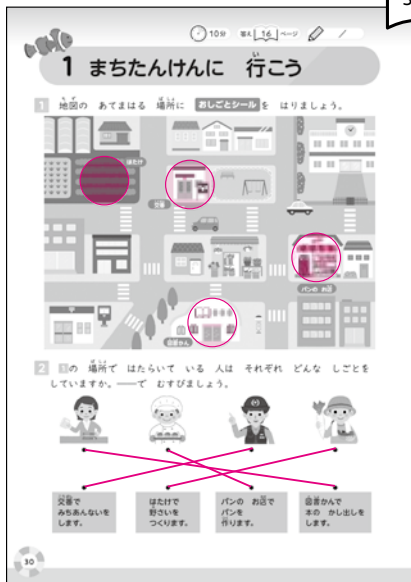
(3)15cm11mm = 15cm + 1cm1mm = 16cm1mm

この方法の他に、9cm4mmと6cm7mmをそれぞれ94mm、67mmと考えて

94mm + 67mm = 161mm = 16cm1mmと計算する方法もあります。

1 まちたんけんに 行こう

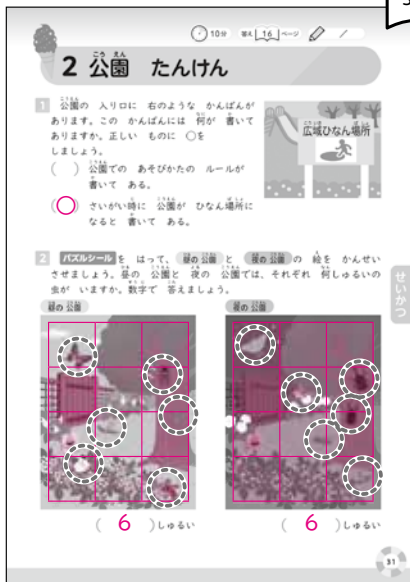
30ページ



おうちのかたへ 町探検をしながら、生活を支える仕事をしている人がいることに気づかせます。1で貼ったシールの場所に2の人々がいます。

2 公園 たんけん

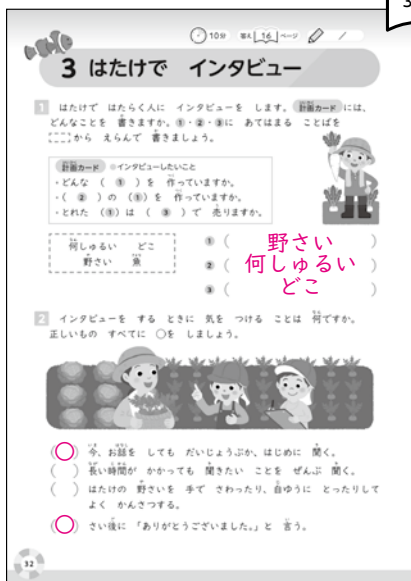
31ページ



おうちのかたへ 1 広い公園は災害時の一時避難場所になっていることもあります。避難場所マークを探してみましょう。2 昼と夜では観察しやすい生き物が異なります。違いに着目できるとよいでしょう。

3 はたけで インタビュー

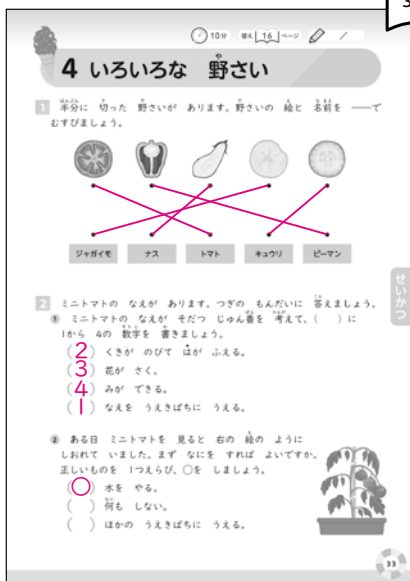
32ページ



おうちのかたへ 1 インタビューに出かける前は準備が大切です。誰が何を聞くのかも決めてから出かけるとういですがね。2 インタビューに出かけたときは、その場にあるものを勝手に触らないようにしましょう。

4 いろいろな 野さい

33ページ



おうちのかたへ 1 野菜の断面図を見たことがない場合は、実際に野菜を切って観察すると理解が深まります。2 ミニトマトを育てたことがない場合は、他の植物を例にして考えてもよいでしょう。

せいかつ

国語 夏休みしあげテスト

2年生夏休み

しあげテスト



1 つぎの「ことば」を、まどめて、よむ。(1) 10点

① まぐろ たい
めだか さめ
たいこ もっさん
ふえ オルガン

魚 楽き

② おもちや 魚 鳥 楽き

3 つぎの文しやうを、読んで、もんだいに答えます。

2 つぎの文で、主語にあたる「ことば」は、ひきましよう。(それぞれ、りようができて、10点)

① 白い、ねこが、ソファアで、ねむる。
② ぼくの、弟は、ぶどうが、すきた。

③ わたしは、きのう、きれいな、月を、見た。

① ヤドカリは、新しい、まき貝の、からを、見つける、と、まず、例を、しますか。(20点)

(例) 足で かかえて
大きさを おもさを
たしかめる。

② ヤドカリは、例を、つかって、からの、なかの、大きさを、はかりますが、正しい、ものを、一つ、えらんで、()に、○を、書きます。(10点)

() 足
() ○ はきみ
() はら

③ ヤドカリが、なか間の、せおって、いる、からを、うばうのは、どんな、ときですか。(1) 10点

からっぽ の貝の からが、
手に入らない とき。

おうちのかたへ

1 仲間になる言葉について確認する問題です。

はじめに、左にある選択肢の言葉をすべて読み、内容を確認しておくように声をかけましょう。2 は、「おもちや」とまちがえやすいので、迷ったり、まちがえていたりしたら、「オルガンはおもちゃかな？」など、一つひとつの言葉について確認するように声をかけるとよいでしょう。

2 文の中の主語と述語について確認する問題です。

主語は、いつも文のはじめにあるとは限らないことに注意して考えます。主語を見つけるのが難しい場合は、先に述語を見つけて、その言葉と結びつく「何(誰)が」「何(誰)は」「にあたる言葉を探すように促すとよいでしょう。

3 説明の順序や文のつながりに注目して、説明文を読み取る問題です。

1 まず、最初の文でヤドカリが「いつも 新しい、まき貝の からを さがして」いることをおさえたいうえで、二文目を読みます。「まず、足で かかえて 大きさを おもさを たしかめます」とあります。

2 「からの 中の 大きさを たんねんに はかります」という言葉がある三文目をよく読むと、「はきみを つかって、からの……はかります」とあります。

3 「なか間の、せおって、いる、からを、うばいます」という言葉がある文のはじめに、「そんな」とあることに注目して、「そんな」が指し示す直前の文を読みます。すると、「からっぽの 貝の からが、いつも 手に 入るとは かぎりません」とあるのが「が」が解答になります。

19 せつめい文を 読もう ③

37ページ

10分 第19ページ

19 せつめい文を 読もう ③

つぎの文しよを 読んで もんだいに 答えましよう。

国語

① あげはは、どんなふうな たまごを うみますか。
はら を まげて ひとつのはっぱに たまごを うんで、いく。

② たまごを うんで、どのくらい たつど、 たまごから よう虫が はい出して きますか。正しいものを、一つ えらんで、() に ○ を 書ましよう。
() 一週間くらい。
() 二、三日くらい。
() 一か月くらい。

③ 大きく なって、からだの かわが さゆくつに なると、よう虫は 何を 書きますか。文中から 三文字で 書きましよう。

だっぴ

37

- おうちのかたへ
- 説明の順序や文のつながりに注目して、説明文の読み取りをします。
- 5行目の「たまごを うんで、いき」という言葉を見つけて、その文をよく読みます。
 - 7～8行目の「たまごから よう虫が はいだして」という言葉を見つけて、その文の中にある「時間を表す言葉」に注目します。
 - 14～15行目の「おおきく なる」と「さゆくつに」になって きます。「と」という文を見つけて、そのすべあとの「な」「を」「から」が始まる部分に答えが書かれています。

20 せつめい文を 読もう ④

36ページ

10分 第19ページ

20 せつめい文を 読もう ④

つぎの文しよを 読んで もんだいに 答えましよう。

国語

① 四かい目の だっぴの 前と 後で、 よう虫の からだの 色は、どのように かわりますか。
だっぴの 前 後ろ
だっぴの 後 前
みどり(いろ)

② よう虫は、どう やって てきを おどろかせますか。正しいものを、一つ えらんで、() に ○ を 書ましよう。
() からだの 色を かえる。
() くさい においの 出る つを 出す。
() 木から おりて、あちこち 歩き回る。

③ 木の えだに のぼった よう虫は、 気に入った ばしょで 何を しますか。 くらから いと を だし からだ を えだに くっつける。

36

- おうちのかたへ
- 説明の順序や文のつながりに注目して、説明文の読み取りをします。
- 最初の文の「四かいめの だっぴ」に注目します。読み取った内容を表に整理すること、理解が深まります。
 - 8行目に「おどろかせます」とあるのをその文をよく読みます。「な」「を」という言葉で、前の文とつながっていることにも注目しましょう。
 - 「きに いった ばしょが みつかる」という言葉から始まる、最後の文に答えがあります。

17 カタカナで書くことば①

39ページ

10分 第4 20 ページ

17 カタカナで書くことば①

1 「から」から、**ピヨピヨ**の鳴き声や、もの音をえらんで、カタカナで書きましょう。

2 「から」から、**ガタン**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

3 「から」から、**コップ**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

4 「から」から、**マフラー**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

5 「から」から、**ヨーグルト**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

6 「から」から、**ケチャップ**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

7 「から」から、**コスモス**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

8 「から」から、**エンジン**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

9 「から」から、**フランス**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

10 「から」から、**エジソン**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

国語

39

おうちのカタへ

カタカナで書く言葉の確認をします。「動物の鳴き声やもの音」「外国の国名、地名、人名」「外国から来た言葉」はカタカナで書くことをおさえます。また、のぼす音は「ー」を使って書きましょう。「ー」を使っていなかったら、「こ」はのぼす音だから、「ー」を使って書こう。「こ」の音をかけましょう。字形をまちがえやすい「ン」「シ」「ソ」「モ」などが正しく書けているか確認するよう、に声をかけましょう。

18 カタカナで書くことば②

38ページ

10分 第4 20 ページ

18 カタカナで書くことば②

1 「から」から、**パチン**の鳴き声や、もの音をえらんで、カタカナで書きましょう。

2 「から」から、**ケロケロ**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

3 「から」から、**インソップ**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

4 「から」から、**オムレツ**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

5 「から」から、**ロボット**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

6 「から」から、**イギリス**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

7 「から」から、**バス**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

8 「から」から、**ラケット**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

9 「から」から、**ドア**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

10 「から」から、**コンコン**の国名、地名、人の名前をえらんで、カタカナで書きましょう。

国語

38

おうちのカタへ

カタカナで書く言葉の確認をします。

1 ことばを仲間分けしながらカタカナに書きかえることで、カタカナで書く言葉にはどのようなものがあるかを理解していきます。濁点・半濁点や、小さな書く字に気をつけて書くように促しましょう。

2 文をゆっくり声に出して読みながら、カタカナで書く言葉を探すとよいでしょう。答えがわからず戸惑っていたら、一つひとつの言葉を一緒に確認しながら、カタカナで書く言葉かどうか声をかけて考えていきましょう。

13 文の組み立て ①

10分 第4 22 ページ

13 文の組み立て ①

1 つぎの文の中で、主語にあたるものをひきましよう。

主語 「何(なに)だれ(だれ)は」に
あたることは、

- ① 金魚が およぐ。
- ② すいかは 丸い。
- ③ わたしの 弟は 四才だ。
- ④ 校庭の 木に 鳥が とまった。
- ⑤ きょう ぼくは ケーキを 食べた。

2 つぎの文の中で、じつ語にあたるものをひきましよう。

じつ語 「どうする」「何(なに)だ」「どんなだに」
あたることは、

- ① ライオンが ほえる。
- ② かまきりは こん棒だ。
- ③ 今日は 朝から あつい。
- ④ わたしは 友だちに 本を かした。
- ⑤ ゆうきくんは 絵を かくのが 上手だ。

国語

43

おうちのかたへ

- 文の組み立てをとらえるうえで大切な、主語と述語について確認します。
- ① はじめに、□の中の言葉を声に出して読み、主語とはどういうものかを確認しましょう。主語は、文のはじめにいつもあるとは限らないことに注意して、文をよく読んで答えるようにしましょう。
 - ② □の中の言葉を声に出して読み、述語とはどういうものかを確認します。述語を見つけることができれば、その文の主語はどれかを考えて、主語と述語のつながりを確認するとよいでしょう。

14 文の組み立て ②

10分 第4 22 ページ

14 文の組み立て ②

1 つぎの文の中で、主語にあたるものをひきましよう。

主語 「何(なに)だれ(だれ)は」に
あたることは、

- ① 犬が すなはまを 元気に 走る。
- ② りんごは いちごより 大きい。
- ③ あした お父さんが 外国から 帰る。
- ④ 先週の しあいに わたしは 出なかつた。
- ⑤ ふじ山は 日本で いちばん 高い 山です。

2 絵に合う文になるように、□の中の前や後ろの言葉を読み、正しい文になる言葉を選びます。答えを書いたら、できた文を声に出して読むとよいでしょう。

絵 1: カラスが 夕日が しずむ。

絵 2: この かばんは とても おもい。

絵 3: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 4: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 5: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 6: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 7: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 8: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 9: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 10: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 11: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 12: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 13: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 14: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 15: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 16: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 17: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 18: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 19: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 20: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 21: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 22: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 23: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 24: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 25: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 26: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 27: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 28: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 29: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 30: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 31: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 32: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 33: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 34: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 35: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 36: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 37: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 38: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 39: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 40: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 41: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 42: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 43: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 44: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 45: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 46: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 47: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 48: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 49: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 50: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 51: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 52: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 53: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 54: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 55: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 56: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 57: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 58: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 59: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 60: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 61: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 62: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 63: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 64: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 65: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 66: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 67: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 68: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 69: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 70: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 71: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 72: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 73: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 74: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 75: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 76: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 77: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 78: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 79: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 80: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 81: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 82: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 83: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 84: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 85: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 86: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 87: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 88: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 89: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 90: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 91: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 92: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 93: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 94: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 95: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 96: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 97: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 98: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 99: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

絵 100: 夕日が ぼくは とうきょうに 来た。

42

おうちのかたへ

- 主語と述語について確認します。
- ① 答えがわからず戸惑っていたら、13に戻って□の中の言葉を読み、主語・述語がそれぞれどういうものかを改めて確認するとよいでしょう。述語から先に探すと見つけやすいことがあります。主語は「〜が」「〜は」「まる」線を引きます。
 - ② 絵をよく見て内容をとらえたうえで、□の前や後ろの言葉を読み、正しい文になる言葉を選びます。答えを書いたら、できた文を声に出して読むとよいでしょう。

11 せつめい文を 読もう ①

45ページ

10分 第4 23 ページ

11 せつめい文を 読もう ①

つぎの文しよを 読んで もんだいに 答えましよう。

国語

① ヤドカリは、いつも 何を さがして いますか。

新しい まき貝 の

から

①のものが 見つかるど、ヤドカリは 何を しますか。正しい、じゆんに なるように、() に 1 から 4 の 数字を 書きましよう。

② からに つまった ものを とりだす。

① 足で かかえて 大きさを おもさを たしめめる。

④ からに 大きさが ていぶらなら、その からに 引っこす。

③ はきみを つかって、からの 中の 大きさを はかる。

45

おうちのかたへ

- 説明の順序に注目して、説明文の読み取りをします。
- 1～2行目に、「ヤドカリは、いつも 新しい まき貝の からを さがして います。」とあることに注目します。
 - 2 3行目に、「からが 見つかるど」とあることに注目して、その後の部分からヤドカリの行動をていねいに読み取っていきます。一つの文の中に二つの行動が説明されているところもあるので、上の文章と下の四つの文の内容を照らし合わせながら、順番をていねいに声をかけましよう。

12 せつめい文を 読もう ②

44ページ

10分 第4 23 ページ

12 せつめい文を 読もう ②

つぎの文しよを 読んで もんだいに 答えましよう。

国語

① からっぱの 貝の かがが 手に 入らない とき、ヤドカリは どう しますか。

なか間のせおって いるからをうばう。

② ヤドカリは、どう やって あいての ヤドカリを からから おい出しますか。

から から おい出す。

③ おい出された ヤドカリは、どう しますか。正しい、ものを 一つ えらんで、() に ○を 書きましよう。

() からが ない ままで すこす。

() のこった からに 入る。

() すぐに からを うばいかえす。

44

おうちのかたへ

- 文と文のつながりに注目して、説明文の読み取りをします。
- 1 まず、1～2行目に「からっぱの 貝の からが、いつも 手に 入るとは かがりません。」とあることに注目します。そのすぐ後の3～4行目にある「そんな とき、ヤドカリは」という文からヤドカリの行動を読み取ります。
 - 2 5～6行目、「あいての ヤドカリを からから おい出します」という言葉がある文を見つけて、その文をよく読んで答えます。
 - 3 「おい出された ヤドカリは」から始まる9～10行目に着目します。

9 なかまの ことば

10分 第4 24 ページ

9 なかまの ことば

1 同じ「の」の漢字を、まぐわって、なかに「の」をいれよう。
「の」から えらんで、書きましょう。

2 同じ「な」までは、ない「の」をいれよう。
えらんで、○で、かこみましょう。

1 なす・キャベツ・トマト・にんじん
野さい

2 春・夏・秋・冬
きせつ

3 ひこうき・バス・自てん車・船
のりもの

4 野きゅう・水い・テニス・スキー
スポーツ

5 ませり スポーツ 野きゅう のりもの

1 雨 くもり 曇れ
丸は 赤 白 茶

2 つばめ ねこ からす わし

3 ギター ハーモニカ ピアノ ポスト

4 国語 算数 教室 音楽

5 国語 算数 教室 音楽

47

おうちのかたへ

仲間になる言葉について確認します。

1 まず、□の中の言葉を声に出して読み、もの名前には、仲間になる言葉を大きくまとめてよぶ言葉があることを確認しましょう。答えが書いたら、ほかにはどんな言葉が仲間になるかを考えて、言ってみてもよいでしょう。

2 それぞれ言葉を選べたら、「やうしてこの言葉が仲間ではないのかな」と声をかけ、理由を確認します。理屈の通る理由が説明できたら、解答とお子さまの答えが違っても、正解にしてください。

10 ことばの かいだん

10分 第4 24 ページ

10 ことばの かいだん

1 絵に合うことばを、ひらがなで書いて、ことばのかいだんを、かんせいさせましょう。

2 絵に合うことばを、かんせいさせましょう。

□の文字を書いて、かいたんを作ろう。

□の文字を書いて、かいたんを作ろう。

□の文字を書いて、かいたんを作ろう。

ちき ゆ し と
う ち き ゆ う

なつ か
ゆ し と
ち き ゆ う

たけのこ たまねぎ むりこ

き ゆ う こ て う し よ
ひ く ど し よ
み よ ば け よ
か み こ ん い く

かみひこうき
あてはう！

46

おうちのかたへ

絵に合う言葉を書いて、文字が一つずつ増えたり、減ったりする言葉の階段を作ります。ひらがなの復習になるので、□の中に正しい字形でいねいに書くように促しましょう。階段の言葉が書けたら、二重枠□の文字を声に出して読み、できた言葉を確認します。下段の問題は、文字数が多く少し難しいかもしれません。わかったところから書いていくように声をかけましょう。

3 1年生の かん字 ③

53ページ

10分 第4 27 ページ

3 1年生の かん字 ③

1 かん字のいちぶが かかれて います。に 正しい かん字を 書きましよう。

① 木 (き) 本 (ほん) 土 (つち) 上 (うへ) 王 (おう) 玉 (たま) 貝 (かい) 見 (み)

② たねの うえに 土を かける。

③ さまが シヤボン であそぶ。

④ うみで 貝がらを 貝につける。

5 林 (はやし) 村 (むら) 人 (ひと) 人 (ひと)

⑤ 木の むこうの 木へ 行く。

⑥ へやに 人が いる。

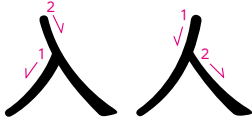
⑦ 石 (いし) 石 (いし) 右 (みぎ) 石 (いし) 学 (がく) 字 (じ)

⑧ 学校で かん字を ならう。

国語

53

- おうちのかたへ
- 字形に気をつけて覚えておきたい漢字の一部をかいています。
- 「見」と「見」は、下の部分の点や線の向きや長さに気をつけて書くように促しましょう。
 - 「人」と「入」は、特にまがえやすいので、それぞれ書き順や線の向きを確認して、正しく書けるように練習するようしましょう。
 - 「字」は「一」三画目の点の向きに気をつけて書いておくと書くときに声をかけやすいでしょう。



4 1年生の かん字 ④

52ページ

10分 第4 27 ページ

4 1年生の かん字 ④

1 の かん字の 読みがなを 書きましよう。

① つき (つき) せん (せん) さき (さき) した (した) き (き) めい (めい)

② まるい 月。 校長先生。 ゆびの先。

③ 月よう日。 手を下げる。 さくらの木。

④ 火を けす。 木よう日。

⑤ か (か) ひ (ひ) もく (もく)

⑥ 二年 前。 ねん (ねん) とし (とし) 年をとる。

⑦ 自 とう車。 くるま (くるま) 車いす。

⑧ 五月 生まれ。 う (う) せい (せい) 小学生。

⑨ 正しい 字。 ただ (ただ) しょう (しょう) お正月。

⑩ 外に 出る。 だ (だ) で (で) 水を出す。

国語

52

おうちのかたへ

同じ漢字でも複数の読み方があることを確認する問題です。漢字の前後の言葉をよく読み、それぞれに合う正しい読み方を覚えているか確認しましょう。答えが書けたら、その文や言葉を声に出して読んでみるとよいでしょう。読み方を正しく覚えることは、その漢字を正しく使いこなす力にもつながります。それぞれの漢字を使ったほかの言葉を考えたり、数や曜日を表す漢字の読み方を確かめたりして、学習を広げていくとよいでしょう。

1 1年生の かん字 ①

55ページ

10分 第4 28 ページ

1 1年生の かん字 ①

1 □に かん字を 書きましよう。

国語

55

おうちのかたへ

一年生で習った漢字の復習をします。とめる・はねる・はらうや、出る・出ないに気をつけて、ていねいに書くように促しましょう。また、正しい書き順で書けているかも確認しましょう。

「雨」は、点の数や向きに気をつけましょう。「森」は、形が似ている「林」とまちがえやすいので、それぞれ正しく覚えるようにしましょう。「女」は、形のバランスがとりづらいので、書き順を確かめながら練習するとよいでしょう。



2 1年生の かん字 ②

54ページ

10分 第4 28 ページ

2 1年生の かん字 ②

1 □に かん字を 書きましよう。

国語

54

おうちのかたへ

一年生で習った漢字の復習をします。関連する漢字は、一緒に覚えるようにすると覚えやすくなります。字形や書き順に気をつけて、ていねいに書くように促しましょう。わからなかった字や、書きまちがえた字は、正しい字を確認したうえで何度も練習して、この機会にしっかりと覚えるように声をかけましょう。

「耳」は、横棒の出る出ないをまちがえやすい字です。「手」「足」は、線の向きに気をつけて、正しい字形で書けるように促しましょう。

